

令和4年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①各教科・科目において、知識・技能及び思考力・判断力・表現力をバランスよく育て、予測困難な時代を生きぬく力を身に付けた人材を育成する。 ②教科横断的な学習及び持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進し、持続可能な社会の積極的な創り手を育成する。	①「主体的・対話的で深い学び」は元よりすべての学習場面において「探究的な学び」を実践させるための組織的な授業改善の強化。 ②一人1台PCを効果的に活用した授業の研究とその情報共有を促進させると共に、情報機器活用に関するスキルアップを図る。 ③始業前や放課後の学習時間の有効的な活用を目指すと共により効果的な手立てを研究する。 ④1学年の総合的な探究の時間において「地域探究」を軸とした発展的取組を実施する。	①各教科会等において、「探究的な学び」についての意見交換を行うとともに、校内において研究授業や公開授業・研究協議等を実施する。 ②特に1年生の各科目において、パソコンを活用した授業を出来る限り多く実践する。 ③1年生に対して朝読書を試行する。また、その効果や課題を検証し、始業前や放課後の時間の効果的な活用について検討する。 ④「舞岡プロジェクト」を柱とした地域探究の取組を計画し探究教育の充実を図る。	①「探究的な学び」に関する研究授業・公開授業・研究協議等を、全ての教科において実施することができたか。 ②1年生の各科目において年間を通じてパソコンを活用した授業を実施することができたか。 ③始業前や放課後の時間の効果的な活用について方向性を示すことができたか。 ④「地域探究」を軸とした発展的な取組を実施することができたか。	①月1回の定例教科会を活用し、日頃の授業についての意見交換や新教育課程における新しい科目についての意見交換等を実施した。また、9月から11月にかけて、各教科において研究授業や研究協議を実施した。 ②環境整備をしつつ、お互いに授業を見学するなどICTの活用に取り組んだ。 ④第1学年の総合的な探究の時間において、地域の方々へのインタビューを実施した。	①日頃の家庭学習が不足している生徒が多く、「探究的な学び」の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能がなかなか定着しないため、学習への意識付けの強化や課題の量と質を高めるなどの手立てを引き続き講じていきたい。 ②モニター整備などさらなる環境の整備を行う。Wi-Fiの再配置なども県と連絡をとりながら実施する。 ④インタビューの結果を地域などに発信できるようにする。	・教員は生徒とコミュニケーションを取りながら授業を進めていた。教員が一方的に情報を伝達する授業スタイルからの変化を感じる。 ・中学校では様々なものを可視化している。個人PCを使っている授業もあったが視覚的な教材を使っている授業が少なかった。 ・朝読書は文章を読む機会が減っていることから意図的に機会を作るのは良い取り組みである。 ・舞岡プロジェクトの個人探求論文集は生徒の考察など取り組みがよくわかる成果物である。	①月1回の定例教科会において、新教育課程における新しい科目について意見交換を行い、共通理解を図った。 ①9月から11月にかけて、各教科会で研究授業を行い、研究協議を実施した。 ①12月に実施した「生徒による授業評価」において、学習の状況についての項目のひとつである『授業の中で身についたことや、できるようになったこと』を実感することができた』という評価の割合は88.2%であった。 ②Wifiは授業に支障ない程度の環境を整えた。 ③1年生で始業前に朝読書を実施した。 ④総合的な探究の時間において1学年生徒が地域の方々へのインタビューを実施し、「地域探究」の発展的な取り組みを行った。	①授業評価について、数値上はほぼ達成できていると考えられる。更に授業の工夫と一定程度の学習負荷をかけ「自ら考える力」を身に付けさせるために日常的な授業研究に取り組んでいく。 ②パソコンを活用した授業づくりの研修や授業見学など、更なる推進を図る。 ③来年度は全学年で朝読書を実施する。 ④探究活動の取り組みの一つとして、成果のあった3年生が1年生にプレゼンテーションを行い、研究方法等の伝達を引き続き行う。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	①生徒の規範意識を育み、基本的な生活習慣の定着を図り、健全な成長を促し、自己実現に向けた自律性・人間性の育成を目指す。 ②生徒会活動や部活動とおして、生徒が主体的に取り組める行事等の充実を図ると共に、将来へと続く人間力を身に付けた人材の育成を目指す。	①18歳で成人となることをしっかりと意識させた上での規範意識や生活習慣等についての指導を実践する。 ②生徒一人ひとりに気を配り些細な変化も察知し早急に情報共有を行うと共にスクールカウンセラーとの連携をより密にする。 ③新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、生徒会行事の運営や部活動への取組方法について検討する。	①②定期的な登校指導により登下校時のマナーや遅刻指導を行い、基本的な生活習慣の定着に向けた指導を行う。また、生徒の規範意識の更なる向上に向け教職員が情報を共有し、共通理解のもと、学校内外の連携を密にし、組織として指導にあたる。 ③体育祭や文化祭の実施時期や内容を感染予防に徹底した取り組みにする。 ③部活動の活動に関する基本方針を感染拡大防止に徹底した形態を示す。	①基本的な生活習慣や社会人に必要なマナーの大切さを生徒に定着させることができたか。 ②教職員が情報を共有し、組織的に指導することができたか。 ③生徒会行事や活動内容で生徒が自主的、主体的に取り組むことができたかアンケート等で確認する。 ③部活動の活動に感染症拡大防止対策を踏まえた形式で行えたか。	①毎月登下校指導を行いマナーや遅刻指導を行った。 ①情報提供は常に行い職員の共通理解を図った。 ②体育祭実施に向け検討を行い感染予防の観点を考慮しつつ6/3に実施した。文化祭は昨年度の内容を踏襲し改善傾向にある状況を考慮しコロナ対策を行い、9/30は校内発表、10/1は生徒保護者限定の公開実施とした。 ③前年度同様に部活動を行う上で、県の指針を踏まえつつコロナへの感染予防を取り入れた実施方法を指示した。	①今後も定期的な登下校指導を継続しより一層の基本的な生活習慣の定着を目指す。 ①教職員間の情報提供は今後も継続して行い、生徒の規範意識の向上を目指す。 ②スクールカウンセラーとの連携を図り、生徒の変化を早く察知する。 ③新たな内容で行った文化祭についての評価を、文化祭実行委員会を中心に行っている最中である。 ③前年度同様にコロナ対策を盛り込んだ活動マニュアルの指針を示した。	・18歳成人については、保護者の心配が大きいと思われる。クレジットなどに関する講演会の実施など効果的と考える。 ・スクールカウンセラーの予約が多い現状から様々な問題があると思われる。引き続き生徒が抱える課題に対応してもらいたい。 ・コロナ禍前は体育祭や吹奏楽部との関わりもあり、地域や自治会等との交流が盛んに行われていた。現在は厳しい状況下にあるが、学校側から積極的に発信するよう努めてもらいたい。	①年間を通じた定期的な登下校指導が定着しており、地域の方々からの情報提供があった。今後も継続して行い基本的な生活習慣の定着を目指す。 ②生徒情報交換会やケース会議を行い、共通理解を図った。 ③前年度同様に部活動を行う上で、県の指針を踏まえつつコロナへの感染予防を取り入れた実施方法を指示した。	①今後も定期的な登下校指導を継続し、地域と共存していることを生徒に認識させながらより一層の基本的な生活習慣の定着を目指す。 ②生徒、保護者からの相談について教育相談を中心にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部機関と連携し組織的な対応を行っていく。 ③県教委の指示の元、感染予防を徹底し、保護者や地域の方々を招いた学校行事の取り組みに戻していく。

3	進路指導・支援	<p>①「進学先の向こうにある社会」を具体的に意識し、自主的に職業、生き方、社会へのかかわり方について生徒の理解を深めさせ、生徒の希望する進路実現に向けたキャリア教育を推進する。</p>	<p>①昨年度、課題である「3年間を見据えた指導計画の実施と実施後に見直しを通して改善点を探る」について、各学年と連携した取り組みを実践する。 ②引き続き、進学先や就職先の指導に留まることなく、将来の自分も含めたキャリアがイタズを研究すると共に実践する。 ③生徒、保護者への丁寧な情報発信は継続する。</p>	<p>①3年間のキャリア指導計画を元に1年から3年まで各学年で生徒個人が自己を認識したうえで進路を考えられるように指導する。 ②新教育課程における調査書、大学入学共通テスト、高大接続改革の動向を把握し、生徒の進学先に対応した指導を行う。 ③グループと担任が連携して生徒の進路希望調査を行い、さらに三者、二者の面談をとおして生徒の不安を解消するだけでなく、各家庭への情報発信にも力を入れて、進路指導を行う。</p>	<p>①自己分析や自己認識をとおして自己理解を深め望ましい進路が決められたか。 ②新様式の調査書の発行と、大学入学共通テストの手続きや、進路指導が正しくできたか。 ③生徒の進路希望調査と面談（二者・三者）、家庭への情報発信をとおして、適切な進路選択の実現を前提とした事故防止対策ができたか。</p>	<p>①3年間のキャリア指導計画を元に、1年から3年まで各学年で生徒個人が自己を認識したうえで進路を考えられるように指導した。 ②新教育課程における調査書、大学入学共通テスト、高大接続改革の動向を把握し、生徒の進学先に対応した指導を行った。 ③グループと担任が連携して生徒の進路希望調査を行い、さらに三者、二者の面談をとおして生徒の不安を解消するだけでなく、各家庭への情報発信にも力を入れて、進路指導を行った。</p>	<p>①各個人が落ち着いて自己の活動を振り返る時間が少ないため、自己認識が十分にできない生徒がいた。 ②高大接続改革の動きが大学ごとに特徴を出してきたことで、高校内での情報の共有化が課題である。 ③到達度テストを通じて、本校の生徒の特長や課題が明確になった。課題について情報の共有化を図り、具体的な対策を立て検討する為の時間が不足している。</p>	<p>・進学、就職したあとを考えると、生徒の一人ひとりの主体性が一層重要になってきている。生徒の希望に寄り添い支援する指導が必要である。</p>	<p>①自己を認識したうえで進路を考えさせる指導を行った結果、大学進学が6割、専門学校3割のほか、就職についても希望する進路決定に導くことが出来た。 ②新様式の調査書、大学入学共通テスト、高大連携改革の動向を把握し進学先に対応した指導に努めた。 ③課題について情報の共有化を図り、具体的な対策を立て検討する為の時間が不足したため、保護者への十分な情報発信が出来なかった。</p>	<p>①③従前の7月末の三者面談週間に先駆け、6月に3年生を対象とした三者面談週間を新たに設定し、きめ細やかな指導を行う。 ③到達度テスト等を通じて生徒の特長や課題を把握し、職員で情報共有し組織として対策を検討していく。</p>
4	地域等との協働	<p>①Webページなど様々な広報媒体を使って、県民にわかりやすい情報提供をより一層推進する。 ②地域や保護者及び分教室との連携を更に深め、開かれた学校づくりの推進を図る。</p>	<p>①ポストコロナを見据えた保護者や地域との協働を検討し準備にあたり共に、現在できることを具体化し実践する。 ②分教室との連携をさらに深め「共にできること」については、積極的に取り組む。 ③ホームページ等の広報媒体の充実を図る。</p>	<p>①地域商店街とタケノコを通じた交流「マイタケプロジェクト」の活動を継続する。 ②分教室との交流事業で感染防止対策の視点から精選や取組内容の見直しを行う。 ③Webページ等様々な媒体を使用して本校の情報を発信し地域との繋がりの一助とする。</p>	<p>①コロナウイルスの感染流行状況に配慮しながらより一層の交流を促進できたか。 ②感染症拡大防止を優先させながらも分教室との交流を活発化できる新たな企画や内容の充実ができたか。 ③適切なWebページの作成と更新を行うことができたか。</p>	<p>①地域商店街とタケノコを通じた交流「マイタケプロジェクト」は夏の商店街の七夕など多様な取り組みをした。 ②③1年生の地域インタビューをはじめコロナ禍でのふれあいを通じた教育活動に取り組んだ。 ②「ふるさと舞岡花さかクラブ」との連携など花壇に限定された地域との交流が行われた。</p>	<p>①地域との連携を行いながら、来年度についても計画していく。 ②③コロナ感染状況などを考慮しつつオンラインでの活動も拡充していく。 ②③コロナ後を見据えて新たな計画の立案にも着手する。 ②分教室との新たな交流事業はできる限りの範囲で実施していく。</p>	<p>・今年度の高校入試はクラス増でありながら高倍率の要因は「学びたい」と思える雰囲気、「安心感」の土壌があったと推察する。</p>	<p>②新型コロナウイルスの対応を考え、分教室との交流事業は最低限で行える内容のみで実施した。6/3 体育祭の終日参加、7/7.8 七夕竹の宴 9/30、10/1「桔梗祭」（文化祭）の展示・販売・アトラクション参加、新規として12/12～16の登校時に舞岡高校生徒会本部と「あいさつ運動」を交流事業として実施した。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症の動向を見極めつつ、日常的で地道な活動を実施する。 ②マイタケプロジェクトなどの新たな交流とインタビュー結果を地域に発信するなど、更なる改善を図っていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①安心で安全な学校をつくれるよう、学習環境の改善を推進する。（学校管理） ②教員の意識改革を促し、教員の働き方改革を推進する。（管理職）</p>	<p>①事故不祥事防止については、全ての職員が強く心掛け不祥事ゼロを実践する。 ②施設等の安全管理は全員が意識して取り組む。 ③引き続き、働き方改革について、アイデアを出し合い可能なことは積極的に実践する。</p>	<p>①気付いたことは職員が互いに声掛けを行うなど、事故防止研修を通して主体的な行動ができるよう意識啓発を行う。 ②校内の安心・安全な学習環境整備を推進する。耐震工事についての取り組みを確実に進め、仮校舎からの移転に向けて防災用品の収納場所を検討する。 ③効率よく業務進行できるように協働を意識した業務進行を図る。</p>	<p>①職員が主体的に事故防止に向けた行動を取るなど、研修を通して意識の向上が図れたか。 ②校内の学習環境の改善がはかれたか。仮校舎からの移転は円滑に実施できたか。防災備蓄品の充実が図れたか。 ③勤務時間を意識した業務進行を行うことが出来たか。</p>	<p>①人権研修など、事故の未然防止に向けて職員の意識を高めた。 ②防災備蓄品などの仮校舎からの移転は円滑に実施できた。 ②新年度に向けた適切な教室配置など、校内の安心・安全な学習環境の整備に努めた。 ③適切な業務分担など協働を意識した業務遂行を図った。</p>	<p>①事故不祥事の未然防止に向けて職員が主体的に行動できるよう意識啓発を進める。 ②防災備蓄品の購入など収納場所を考慮しながら計画的に実施する。 ②教室への暗幕の設置など、ICT教育に係る学習環境を改善する。 ③会議時間の短縮など、時間を効率的に活用した業務遂行を務める。</p>	<p>・防災関係で「ボランティアとして協力してもらえるのでは」と期待する気持ちがある。まずは防災関係での交流を望む。</p>	<p>②耐震工事が終了し、円滑に本校舎への移転が終了した。防災備蓄品に関しても本校舎への移転が順調に行われた。 ②教室に暗幕を設置し、ICT教育に係る学習環境を整備した。 ②戸塚区青少年防災対応力強化研修に生徒が参加し地域行事の交流を図った。 ③働き方改革を十分に推進することは出来なかったが、休暇の取りやすい職場環境作りを進めることが出来た。</p>	<p>②生徒が安全に安心して学べるよう、引き続き学習環境の整備、防災備蓄品購入など保管場所を考慮しつつ計画的な遂行に努める。 ③働き方改革については引き続き考えていく。</p>

